



## ■エコマーク

エコマークとは「私たちの手で、地球を、環境を守ろう」という気持ちを表した、環境保全に役立つ商品につけられるシンボルマーク。環境 (Environment) と地球 (Earth) の頭文字「e」が人間の手の形となって、地球をやさしくつつみ込んでいるデザインになっている。(エコマークの「エコ」とは私たち人間や生物が生きていけるよい環境という意味)

現在、フロンを使用しないスプレー、台所流し台水切り用紙袋、コンポスト、古紙100%使用のトイレットペーパーなど35品目(1,577商品)にこのマークがつけられて販売されています。私たちが環境に負担の少ない商品を使うよう心がけるようになったら、エコマーク商品ももっと増えるでしょう。

## 蛇口から飲める熊本の水を守る

田代 台所からもゴミを少なくすることを考えなきゃいけない。また、台所からの排水についても考えなきゃいけない。例えばジャガイモの皮やニンジンのは、汚れたお皿の油を落とすのにすこ

くいいです。それで一度拭くと結構きれいになり、あとはパッと洗うだけできれいになります。それだけ下水の汚れが少なくなります。そのように水が汚れないようにしなきゃいけない。その基礎である下水はとても大切ですね。私はいろんな国に住んでましたが、蛇口をひねった水が飲めるところは少ないです。本当に熊本は恵まれている。こうした意味でも環境の問題の中で水のことはとても重要だと思います。特に熊本では。

部長 おっしゃる通りです。水を大切にしてい

ていくことはただ単に法規制がなされているからこれはダメだ。また、法規制されていないからこれは自由にしていいんだという意識があるんじゃないか。これから良好な地下水を守っていくためには、まず自己規制をやつてもらう。そして行政としてもそれは法規制の対象になっているとかいないとかいうことじゃなくて、水を守るためにはどうするかということを一つ考えなければと思います。

前原 山鹿で二千人を対象に「地球にやさしい暮らしについての意識調査」を行い、その集計が出たところですが、「地球環境の保全に関心があります」

という方が〇・二%、ないが三%ございました。実践していることで一番多いのは生ゴミの水切り。それから、私たちはコンポストの推進をしています。それが三二%。それから家庭用の雑排水についての汚染防止が四五%。手作り石けん、粉石けんの愛用というのが二三%、二八%ありました。しかし、この中で一番ショックだったのは、エコマークを全く知りませんという方が六〇%いたことです。

## 自然は人間だけのものじゃない

田代 あと、緑の問題ですね。あちこちで家を建てているけれど、家をぎりぎりに建てて、木を忘れていくの。一本も入れないのね。植木屋さんは高いし、草取りはめんどうだし、虫も落ちるけど、それが毎日の人間の生活じゃないですか。秋が来れば葉っぱも落ちる。掃除は大変だけど、それは一つの楽しみじゃないでしょうか。そうして町の中からだんだん緑がなくなるのは寂しい感じがします。新しい緑の命を入れていけたらと思います。

それと、熊本には結構珍しい鳥がいます。引越してきてすぐは望遠鏡で見えなかったのね。それがだんだん来なくなったの。セミもそうです。自然は人間だけの世界じゃないですよ。人間があんまり欲張ると、自然は恐ろしいことをしますよ。

これからの日本の環境問題の一つの基本は土地計画にあるんじゃないでしょうか。それと教育。道德教育といつてもいいかもしれません。

仲島 私どもでは来年、分収造林に是非参加したいと考えています。木を切った後の裸の山に木を植えて下さいというのがあるんです。それで、普通は杉とかヒノキしか植えないので、うちでは広葉樹。葉がつくもの、根が張るもの、そういうものをなるべく便利が良いところに植えたいと思います。そうすれば、クヌギ林などを子供たちの教育とかにも使えるようになるわけですから。

私達、矢部の「脊梁を守る会」の方々の研修会に参加をしています。杉とかヒノキでは、根が張らないので水を全然吸わず、雨が降ると川の水がみるみる増えるそうです。それを防ぐためにも針葉樹ではなく、葉が茂り根が張るものを今から植えていった方がいいのではないかと、現在計画中です。

環境問題は、これからの行政の大きな課題だと思っています。私達の仕事の中で、自然環境をいかに守るか、そして生活環境をどうして守っていくのかと、これは開発と環境保護の調和の問題になるんじゃないかと、その辺をどうしていくのかということを考えていたいと思っています。

そこでまず、各人にどう理解してもらうかを考えると、「環境教育」というか、例えばゴミに対する教育を行っていく。そしてゴミを出さない、出たゴミはリサイクルするというような社会の仕組みをつくっていく。これはなかなか簡単にはいかないと思いますが、やらねばならない。今、仲島さんからお話がいったような各企業での取り組み。また、田代さん、前原さんからお話がいったような我が家での取り組み。そこから一つ一つ積み上げてやっていかなければならないと考えています。本日は、本当にありがとうございます。

◎分収造林方式

土地所有者が第三者から資金や技術を導入して造林を進めるため、将来の伐採時においてその収益を分収する方法

◎環境教育

人間と環境との関わりについて理解と認識を深め、責任ある行動がとれるように住民の学習を推進すること



社内各所に設置されている分別収集の紙箱



週に一回ミーティングが開かれる地域社会活動ワーキンググループ

対談 魚住環境公署部長を囲んで  
未来に伝えたい  
熊本から地球を守る一人ひとりの行動を  
豊かな環境